

Photo

出雲市神戸川河口の海浜性昆虫類

林 成 多

ホシザキグリーン財団, 〒691-0076 島根県出雲市園町沖の島 1659-5

大社砂丘は島根県の代表的な砂丘である。この砂丘の北部付近には、神戸川の河口があり、小規模ながら砂嘴や砂州が形成されている。砂丘上にはハマゴウに代表される海浜性植物群落が形成し、その後背地にはクロマツを主体とした防風林がある。大社砂丘の有剣類については、前田ほか（2004）などの報告がある。ここでは、神戸川河口でみられる甲虫類や直翅類について紹介する。



写真1 神戸川河口 (2005 年 9 月 29 日)

砂丘の陸側に形成した砂州。打ちあげられた流木や海草の下にハネカクシやエンムシなどの海浜性昆虫が潜んでいる。



ハマスズメ (2005 年 9 月 29 日)

砂質海岸に生息する代表的な海浜性のコオロギ。成虫は 7 月～11 月に出現し、ハマゴウやコウボウムギの群落に生息している。「改訂しまねレッドデータブック」で情報不足 DD とされている。



ヤマトマダラバッタ (2005 年 11 月 12 日)

砂質海岸に生息する代表的な海浜性のバッタ。生息環境はハマスズメに似ているが、体が大きくよく飛翔するので、本種の方が目立ちやすい。



写真4 オサムシモドキ (2005 年 11 月 12 日)

海浜だけでなく、河川敷など内陸にも生息しているゴミシ。個体数が多く、大社砂丘周辺でもよくみられる。

[文献] 前田泰生・北村憲二・松本圭司・宮永龍一 (2004) 海浜における送粉生態系の保全に関する研究 2. 山陰地方の海浜性植物ハマゴウ(クマツヅラ科)における有剣類の送粉様式. ホシザキグリーン財団研究報告, (7): 275-303.